

令和5年度

評価・評定の資料

～各教科のシラバス・年間指導計画～

3年

中央区立銀座中学校

3 年 ・ 目 次

教育活動と 評価・評定	1 ~ 4
----------------	-------	-------

各教科のシラバス・年間指導計画

国 語	5 ~ 6
社 会	7 ~ 9
数 学	10 ~ 12
理 科	13 ~ 15
英 語	16 ~ 19
音 楽	20 ~ 21
美 術	22 ~ 23
保健体育	24 ~ 25
技 術	26 ~ 27
家 庭	28 ~ 29

1 令和5年度銀座中学校の教育活動について

中学校では、大きく分けて以下の4つの活動を通して様々なことを学んでいきます。中学校の授業は1時間(1校時)が50分で、週5日週29時間の授業があります。1年間で29時間×35週分=1015時間の授業となっています。本校では授業確保のため、各学年の総合学習は原則として週に1時間(年間35時間)とし、それ以外はまとめどりを行います。

(1) 教科

中学校では、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語(英語)の9教科を学習します。各教科にはそれぞれの教科目標があり、現在の学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の育成を重視しています。

(2) 特別の教科「道徳」

豊かな心を持ち、人間としての生き方を自覚し、未来を拓く主体性のある人間となるためには、その基盤としての道徳性を育てていくことが必要です。主に週1時間の道徳の時間に学びますが、一人一人が自分を見つめ、自分の感じたことをもとに自分の意見や考えを深めていくことが大切です。

(3) 特別活動

学級活動、生徒会活動、学校行事という3つの活動の場で学びます。集団活動を通して互いに切磋琢磨し、個性を伸ばし、社会の一員としての自覚を持ち、自主的・実践的な態度を身に付け、社会の中で自己を生かしていける力を養うことを目指しています。

(4) 総合的な学習の時間

この時間で大切なのは、一人一人がそれぞれの課題を持ち、教科や道徳、特別活動を通して身に付けた力を総合的に働かせること、この総合的な学習の時間で身に付いた力を各教科や道徳、特別活動の時間で生かしていくことです。この時間のねらいは次の2つです。

- ①自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を育てる。
- ②学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

区 分	必修教科の授業時数									道徳の授業時数	特別活動の授業時数	総合的な学習の授業時数	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語				
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015

2 通知表について

(1) 評価をする期間と通知表配布日

① 1、2年生

学期ごとに評価をしていますが、**3学期に記載される評価は通年の評価**となります

	評価をする期間	通知表配布日
1学期	4月から7月の学習の評価	1学期終業式（7月20日）
2学期	9月から12月の学習の評価	2学期終業式（12月25日）
3学期	1学期から3学期の通年の評価	3学期修了式（3月25日）

② 3年生

学期ごとに評価をしていますが、**3年生の4月から12月の学習の観点の評定が2学期の評価**となります。これが進路の資料となります。**3学期に記載される評価は通年の評価**となります

	評価をする期間	通知表配布日
1学期	4月から7月の学習の評価	1学期終業式（7月20日）
2学期	4月から12月の学習の評価	2学期終業式（12月25日）
3学期	1学期から3学期の通年の評価	3学期卒業式（3月19日）

(2) 評価・評定の出し方

① 評価の観点について

全ての教科以下の3つの観点で評価しています。観点によって重み付けはありません。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 100%	② 100%	③ 100%

② 学習状況の評価(観点別評価)について

評価とは、各教科の観点別の成績のことです。各教科とも3つの観点で、それぞれ基準が決められており、その中での達成率でA、B、Cの評価が決まります。本校では、次のように定めています。

A：十分満足できると判断されるもの	達成率が80%以上
B：おおむね満足できると判断されるもの	達成率が50%以上80%未満
C：努力を要すると判断されるもの	達成率が50%未満

③評定について

評定とは、各教科の5段階の成績のことです。教科の各観点の達成率を総合したもので、観点別学習状況の評価を総括し、評定が決まります。本校の評定は、次のように定めています。

5：特に高い程度のもの	達成率が90%以上
4：十分満足できると判断されるもの	達成率が80%以上90%未満
3：おおむね満足できると判断されるもの	達成率が50%以上80%未満
2：努力を要すると判断されるもの	達成率が20%以上50%未満
1：一層努力を要すると判断されるもの	達成率が20%未満

④観点別評価と評定の関係

観点1	観点2	観点3	評定の可能性
評価	評価	評価	
A	A	A	5 4
A	A	B	5 4 3
A	B	B	4 3
B	B	B	3
A	B	C	3 2
B	B	C	3 2
A	C	C	3 2
B	C	C	3 2 1
C	C	C	2 1

⑤ その他

◇総合的な学習の時間の記録

学習活動の内容、成果を文章で記入します。

◇特別の教科「道徳」の評価

授業における取組、変容を文章で記入します。

◇特別活動の記録

生徒会活動（生徒会・専門委員会）、学級活動（学級内の係等）、部活動、学校行事その他（行事の実行委員等の名称や、表彰された実績等）をそれぞれ記入します。

◇出欠席の記録

4月6日から3月25日までの出欠席の状況を記入します。

◇担任より

担任による総合所見を文章で記入します。

⑥ 評価・評定の材料について

各教科の評価は、定期考査だけで行っているわけではありません。日頃の授業での学習活動、宿題などの提出物等で、一人一人の取組を評価します。また実技教科では、実技テストや作品も重要な評価材料になります。各教科のシラバスを見て確認しましょう。

以下の「**学力向上の秘訣**」を参考にして 令和5年度の学習が充実したものになるように頑張りましょう。

学力向上の秘訣＝基本的生活習慣の定着が土台です

- [1] 落ち着いて話を聴く姿勢を大切にしましょう(合わせて読むことも情報を得る手段です)。
- [2] 提出物の期限を守り、必ず出すようにしましょう(宿題も含め、日頃の頑張りの評価です)。
- [3] 時間を守り、家庭で学習する時間を決めましょう(メリハリつけて有効に使いましょう)。

教 科	国 語	学 年	3 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

国語の諸活動をとって、発表力や読解力、コミュニケーションやプレゼンテーション能力などについて理解し、その能力の獲得や定着を図っていく。また、古典や言語活動の学習を重視し、日本の伝統文化や日本語に興味、関心を持って取り組める姿勢の育成を目指していく。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

- ・国語 3 (光村図書) 学習漢字10問(浜島書店) 模擬トレ5 (進研)
- ・国語積み上げ3 (新学社) 国語便覧 (正進社) 読み方レスキュー (正進社)
- ・各教室、4階国語教室
- ・一斉授業、T.T授業 少人数授業
- ・2学期末～3学期はじめにかけ、10時間程度の書写活動(硬筆を含む)を行う。

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	◇定期考査 ◇漢字テスト ◇宿題・ノート等の提出物 ◇書写作品等の提出物 ◇調べ学習等の課題 ◇文法テスト
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	◇定期考査 ◇スピーチ ◇聞き取りテスト・ディベート ◇授業態度(発言を含む) ◇提出物の内容
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考え深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。	◇授業へ積極的に取り組む態度(発言内容や話し合い活動、発言等) ◇授業のふり返し ◇調べ学習等の課題 ◇宿題・ノート等の提出物

【授業の進め方と学習のポイント】

- 毎回の授業で行う漢字練習に積極的に取り組むこと。
- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、自分の考えを持つこと。
- 発言や発表に進んで参加すること。
- 提出物は期限を守って提出すること。
- 定期考査の前には、教科書を繰り返し読むことを基本として、自分のノートを照らし合わせ、授業の流れを確認する学習を行う。ワーク等、問題集を繰り返し学習する。

【家庭学習の進め方】

- ①とにかく一番大切なことは、学校の授業です。特に、心情把握は、根拠に基づいたものになるので、授業中での解説などの話をまとめてメモするなどの工夫を授業で行っておくことが大切です。
- ②予習は、教科書を読んでくれることが大切です。2回ぐらい読めるとよいです。復習は授業内容の確認です。ノートを見ながら、どのようにして読解が進められたかを確認しましょう。
- ③課題図書は、極力読みましょう。また、朝日新聞の天声人語や毎日新聞のコラムに目を通すこともお勧めです。国語が苦手な人はまずはコラムを読むことからはじめ、それが定着したら、自分の考えをまとめ、短作文を書く練習をすると力が付きます。

【学習の基礎となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑦知識技能×問題発見・解決力

- A「説得力のある構成を考えよう」原稿を書き、タブレットで原稿を作成し、目的に応じたスピーチをする。
- B「文学的文章・説明的文章」をしっかり読み解き自分の考えを深め、世界の人々の生き方や社会の在り方について考えを深める。
- C「古典の世界を受け継ぐ」ということで、日本文化の根拠や文法について理解を深め、社会に出ても自信をもって、古典を自分事として考える。

【年間指導計画（国語105時間）】

月	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい	
4	計40	<p>《1》深まる学びへ 「握手」</p> <p>《6》いにしへの心を受け継ぐ 音読を楽しもう・古今和歌集 「君待つと」</p>	<p>場面や登場人物の生き方を捉える</p> <p>文語文の響きや調子 文語文の表現 歴史的背景から作者のものの見方を考える</p>	<p>場面や登場人物の生き方から自分の考えを深める。 考えを比較しながら聞き、自分の表現に役立てる。 聞き手や目的を意識して、工夫して話す。 熟語についての知識を広げ、文の中で使う。</p>	
5		<p>「学びて時にこれを習ふ」 文章を選んで考えよう 文章の種類を選んで書こう</p>	<p>「論語」に親しむ 自分の考えと比較しながら相手の考えを聞く。</p>	<p>論理の展開に着目して、主張を捉える。 文脈の中における語句や図の使い方などに注意して読む。</p>	
6		<p>《2》視野を広げて 「作られた『物語』を超えて」</p>	<p>人間、社会、自然について考える 課題解決に向けて会議を開く 説得力のある文章を書く</p>	<p>漢語・和語・外来語について理解する 筆者のものの見方や感じ方を読み味わい、俳句の世界に親しむ。</p>	
7		<p>説得力のある構成を考えよう リオの伝説のスピーチ 実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう</p>	<p>情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。 漢語・和語・外来語 俳句の世界に親しむ 筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める。</p>	<p>場面設定や登場人物の設定を捉え、自分の考えを広げたり、深めたりする。 文法を理解し日常生活の表現に生かす 他の考えを読み取り、他の考え方を知り、自分の考えを深める。読書の幅を広げる。</p>	
8		<p>《3》言葉とともに 「俳句の可能性」 「俳句を味わう」 「言葉を選ぼう」 ＜読書生活を豊かに＞ 「羊と鋼の森」</p>	<p>文の成分を理解する 目的をもって本を読み、自分の考えを深める</p>		
9		計45	<p>◎弁論作文 《4》状況の中で 「挨拶」 「故郷」</p>	<p>目的に応じて聞く</p> <p>詩に表現されている内容をとらえる 情景・心情描写をとらえる。</p>	<p>話の構成を工夫して効果的に伝える。 意見を伝えるための根拠を示す。 作者のものの見方や考え方が表されている語句の効果的な使い方を捉える 登場人物の心情や作者の意図を読み取る。</p>
10			<p>◎教室ディベート「故郷」 「言葉2」 「聞き上手になろう」【ESD】 「推敲」の展開を整える 「漢字2」</p>	<p>慣用句・ことわざ・故事成語 文化について考えを深める 漢字の造語力</p>	<p>社説を読み比べ、論理の展開を捉え、構成や展開、表現の仕方について評価する。 漢字の造語力を知り、語彙を豊かにする 声に出して読み、言葉の響きや調子を楽しむ。</p>
11			<p>《5》自らの考えを 「人工知能との未来」 「人間と人工知能と創造性」 「多角的に分析して書こう」 【議論】話し合いを効果的に進める 合意形成に向けて話し合おう</p>	<p>文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>文語文の響きや調子 文語文の表現 歴史的背景から作者のものの見方を考える</p>	<p>自分の意見を述べ、他にどんな立場が考えられるかを考える。 文語文の表現になれ特徴をつかんで味わう。心情を読み取る。</p>
12	<p>「初恋」 「夏草」 ◎書き初め</p>		<p>詩の朗読 文法の理解を深める 毛筆による字形・構成</p>	<p>課題の解決に向けて説得力のある提案をし、自分のものの見方や考え方を深める。 詩の朗読を通して、言葉の響きやリズムを捉える 字形を整えてかく。</p>	
1	20	<p>◎書き初め・硬筆 問題演習・課題作文 「エルサルバドルの少女ヘスース」</p>	<p>硬筆・毛筆による字形・構成 問題演習・課題作文 世界の人々の生き方について知る。</p>	<p>字形を整えてかく。 基礎、応用の問題演習。 目的に応じて的確に文を書く。 読書活動を通して、世界の人々や社会の在り方について考えを深める。</p>	
2		<p>《7》未来へ向かって 「誰かの代わりに」 「暖かいスープ」 「わたしを束ねないで」</p>	<p>さまざまな文章を読み、自分の考えを深める</p>	<p>さまざまな文章を読み、人物の考え方や生き方について、自分の考えをもつ。</p>	
3		<p>「三年間の歩みを振り返ろう」</p>	<p>三年間の国語の学習のまとめ</p>		

教科	社会科	学年	3年
----	-----	----	----

(令和5年度)

【教科の目標】

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

- ◇歴史教科書（東京書籍）、資料集（浜島書店）、積み上げ（明治図書）
- ◇公民教科書（日本文教出版）、資料集（とうほう）、積み上げ（明治図書）
- ◇地歴の総復習（新学社）
- ◇一斉授業
- ◇週4時間のうち、1時間を歴史的分野、3時間を地理的・公民的分野とする。

【評価の観点と資料】

観 点	評 価 規 準	評 価 資 料
知識・技能	社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。社会的事象の意義や特色、相互の関係を理解し、その知識を身につけている。	◇定期考査 ◇小テスト
社会的思考・判断・表現	社会的事象から問題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化をふまえて公正に判断している。また考察・判断した過程や結果を適切に表現している。	◇定期考査(主に論述問題) ◇宿題(税の作文等) ◇レポート
関心・意欲・態度	社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追求し、より良い社会を考え、自覚を持って責任を果たそうとしている。	◇定期考査(主にニュース) ◇授業への取組(発言等) ◇宿題・ノート等提出物

【授業の進め方と学習のポイント】

- ① 日頃から忘れ物をせず、宿題などの提出物は、必ず提出期限を守る。
- ② 授業は受け身でなく、問いかけに反応したり、発言するなど積極的に参加する。
- ③ 単元の問いや、それを追究するためのテーマを意識し、調べ、スライドにまとめることができるようにする。そして、調べたりまとめたりする学習から、単元の問いに対して様々な視点や角度から考えて自分の意見を表現できるようにする。

【家庭学習のポイント】

- ① 日頃から新聞やテレビ番組などでニュースに親しむ。特に地理ではニュースで出た地名を地図帳で調べる習慣を付けると良い。
- ② 宿題で出されたカラープリントなどで学習した問題は、答え合わせをしっかりと行い、特に間違えた箇所をはっきりさせる。(できなかった、間違えた部分は消さずに赤で直す)
- ③ テスト前は、カラープリントで学習したことや小テストの問題を繰り返し解く。そして、調べ学習のまとめのポイントを教科書等で確認する。
- ④ 副教材「地歴の総復習」で、地理・歴史の復習をして定期考査や入試に備える。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

マトリックス③ 言語能力×学びに向かう力

学習の目標について理解し、計画、見通しをたてたり、学習したことを振り返ったりする力

- A 1編 1「私たちと現代社会」において、自分たちが追究してきた過程をを振り返り、次の単元に学習したことを活かそうとする。
- B 2編 第1章 個人の尊重と日本国憲法において、自分たちが追究してきた過程を振り返り、次の単元に学習したことを活かそうとしている。

【年間指導計画〔歴史的分野〕、年間35時間】

月	日	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4・5月	8時間	【歴史的分野】 第6章 1節 第一次世界大戦と日本 2節 大正デモクラシーの時代	◇第一次世界大戦の特徴とロシア革命 ◇国際協調の高まりとアジアの民族運動 ◇大正デモクラシーと社会運動 ◇大正時代の文化の特徴	◇第一次世界大戦の背景と特徴を理解する。 ◇第一次世界大戦後の国際協調やアジアで反帝国主義の動きが見られたことを理解する。 ◇大正時代の歴史が、民衆中心の時代であることを捉える。
6月	5時間	3節 世界恐慌と日本の中国侵略	◇世界恐慌とその後の影響 例) ・ブロック経済 ・ニューディール ・ファシズム	◇世界恐慌の背景と各国の対応について理解する。 ◇日本のファシズムの特徴について、満州事変や軍部の台頭を例にして考える。
7月	4時間	4節 第二次世界大戦と日本	◇第二次世界大戦のはじまり ◇戦時下の生活 ◇第二次世界大戦の終結	◇第二次世界大戦とその背景について理解する。 ◇戦時下の生活と私たちの生活を比較し、戦争と民衆について関心を高める。 ◇現代社会でなぜ平和が求められているかについて考える。
9月	4時間	第7章 1節 戦後日本の出発 2節 冷戦と日本の発展	◇民主化と日本国憲法	◇日本の民主化について、日本国憲法の三大原理や教育基本法の成立、財閥解体などを事例にして理解する。
10・11・12月	8時間		◇冷戦の開始と日本の独立 ◇日本の高度経済成長	◇現代の政治・経済が、冷戦の終結や高度経済成長の上で成り立っていることを捉える。 ◇高度経済成長と私たちの生活の関わりについて考える。
1・2月	4時間	3節 新たな時代の日本と世界	◇平成時代の歴史（バブル崩壊後の日本、9・11後の世界、東日本大震災と日本）	◇私たちの生活と平成時代のできごとの関わりについて考える。
3月	2時間	歴史的分野の構想	歴史的分野のまとめ	◇歴史的分野の時代の変化について考え、より良い社会を構築するために、私たちは何ができるかについて考えをまとめる。

【年間指導計画〔地理的分野→公民的分野〕、年間105時間】

月	日	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4・5・6月	8時間	【地理的分野】 第4章 地域の在り方	◇中央区の地域の課題発見とその解決方法	◇中央区の地域の課題を見だし、より良い地域にするための解決方法について提言できる。
	12時間	【公民的分野】 1編 私たちと現代社会 1 現代社会の特色 学習基盤A 2 現代社会の文化 3 現代社会の見方・考え方	◇情報化、グローバル化、少子高齢化の内容と課題 ◇日本の伝統文化や新しい文化 ◇対立と合意、効率と公正の概念について	◇少子高齢化、情報化、グローバル化について理解し、私たちの生活とこれらがどのように関わっているかについて考える。 ◇日本の伝統文化や新しい文化の特徴を理解し、私たちの生活とのつながりや、文化をより良いものにしていくための方策について考える。 ◇対立と合意、効率と公正の概念が、私たちの生活場面でどのように利用されているかを理解する。
7・9月	8時間	【公民的分野】 第2編 私たちの生活と政治 第1章 個人の尊重と日本国憲法 学習基盤B	◇法に基づく政治と日本国憲法 ◇日本国憲法と基本的人権 ◇日本の平和主義	◇人権思想の成立と発展が、私たちの人権の基礎になっていることを理解する。 ◇基本的人権の保障について、私たちの生活と関わらせて考える。 ◇現代の政治と平和憲法や日本の防衛問題の関わりについて考える。
10月	12時間			
11月	12時間	第2編 私たちの生活と政治 日本の政治 第2章 国民主権と日本の政治	◇民主政治と政治参加 ◇くらしを支える地方自治 ◇国の政治のしくみ	◇民主主義を理解するために、政治参加や選挙制度の在り方を考える。 ◇地方自治のしくみと地方分権の動きについて理解する。 ◇三権分立の働きと、国会・内閣・裁判所の関わりについて理解する。
12月	14時間	第3編 私たちの生活と経済	◇消費生活と経済のしくみ ◇生産の場としての企業 ◇金融のしくみとお金の価値 ◇財政と国民の福祉	◇経済に親しみ、商品の選択について、いくつかの身近な事例をもとに考える。 ◇流通のしくみや商品の価格の決まり方について調べる。 ◇市場経済の基本的な考え方を理解する。 ◇生活活動のしくみや企業の役割を考える。 ◇金融のはたらきと役割を考える。 ◇財政のはたらきや税のしくみについて考える。 ◇国民生活と福祉の向上のため、国や地方公共団体の果たす役割を理解し、今後の課題を考える。
1月	14時間			
2月	8時間	第4編 私たちと国際社会	◇国家と国際社会 ◇国際社会の課題と私たちの取り組み	◇国連の活動や多様化する世界の諸問題について理解し、日本の国際貢献について考える ◇資源・エネルギー、人口や食料の問題、地球環境等、現在地球規模で考えるべき問題について関心をもって調べる。
3月	5時間	第5編 私たちの課題－持続可能な社会をめざして－	◇卒業論文	◇これからの社会をどんな社会にしたいかをテーマにし、レポートを作成する

教科	数学	学年	3年
----	----	----	----

【教科の目標】

- ①数の平方根について理解し、数の概念についての理解を一層深める。また、目的に応じて計算したり、式を変形したりする能力を一層伸ばすとともに、二次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにする。
- ②図形の相似や三平方の定理について、観察、操作や実験を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計算に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しを持って理論的に考察し表現する能力を伸ばす。
- ③具体的な事象を調べることを通して、関数 $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係をみだし表現し考察する能力を伸ばす。
- ④母集団から標本を取り出し、その傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取る能力を培う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書：東京書籍
副教材：数学の学習ノート（正進社）、サマーワーク（学宝社）
使用教室：教室・数学教室・少人数教室 指導形態：一斉授業・少人数指導・T T 授業

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	定期考査、単元テスト、週末課題、中テスト
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	定期考査、単元テスト、週末課題、中テスト、レポート
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。	授業、週末課題、問題集、テストの解き直し、定期考査

【授業の進め方と学習のポイント】

- 考え方を理解するだけでなく、手を動かして計算することが大切です。
- 計算の過程を大切にすること。
- 解けた喜びを感じるようにすること。
- 予習 → 授業 → 復習 のサイクルを守る。特に復習はしっかりすること。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、説明をよく聞き、大切なポイントはメモする。
- 重要なことは赤で、大切なことは青で、その他は黒で書く。

【家庭学習の進め】

- ①とにかく一番大切なことは、1時間1時間の授業を大切に聞くこと。書く前に説明をよく聞き、頭に入れたことをノートに写すこと。
- ②問題を解き、間違えたら消さずに新たに書き換えること。どんな間違いをしたか明らかにすること。
- ③理解できなかったことは早めに質問をすること。やり直しをして、しっかり理解すること。
- ④教科書やノートを見直し、授業の内容を振り返る。読むだけでも違うが、できたら数問の問題を解く。
- ⑤毎日5分でもよいので繰り返しましょう。「継続は力なり」
- ⑥提出物については提出・未提出だけでなく、内容を評価するので、ていねいにやること。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス②言語能力×思考力・判断力・表現力

- | | |
|---|---|
| A | 第1章「多項式の計算」において、先にゴールするドミノのコースを予想し、計算を用いて解決し、説明する。 |
| B | 第5章「相似な図形」において、四角形の各辺の中点を結んだ図形を調べ、どんな図形になるか予想し、証明する。 |
| C | 第7章「標本調査」において、生態調査や効率的な消費と生産のパターンを調べることで、母集団の数量を推測し、まとめる。 |

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4 ・ 5 月	19 ⑧ 1章 文字を使って説明しよう【多項式】 (1)多項式の計算 学習基盤 A (2)因数分解 ⑥ (3)式の計算の利用 ④ 章の問題 A・B ①	○多項式と単項式の乗除 ○多項式の乗法 ○乗法公式 ○因数分解 ○公式を利用する因数分解 ○式の計算の利用	○単項式と多項式の乗法や除法の計算ができる。 ○分配法則を利用して多項式どうしの積を展開できる。また、乗法公式を見だし、それを利用して、式を展開できる。 ○いろいろな式を工夫して展開できる。 ○共通な因数をくくり出して、式を因数分解できる。 ○乗法公式を逆にみて、因数分解の公式を利用して、式を因数分解できる。 ○色々な式を工夫して因数分解できる。 ○展開や因数分解を利用して、数の計算や式の値をくふうして求めることができる。
5 ・ 6 月	16 ⑥ 2章 数の世界をさらにひろげよう【平方根】 (1)平方根 ⑧ (2)根号をふくむ式の計算 ① (3)平方根の利用 ① 章の問題 A・B	○平方根 ○素因数分解 ○根号をふくむ式の乗除 ○根号をふくむ式の加減 ○根号をふくむ式のいろいろな計算 ○平方根の利用	○平方根の意味を理解し、ある数の平方根を求めることができる。 ○有理数と無理数の分類ができる。 ○ある数を素因数分解し、ある数の平方根を求めることができる。 ○根号を含む式の乗除の計算ができる。 ○ある数の分母を有理化できる。 ○根号を含む式の加減を計算ができる。 ○分配法則や乗法公式を利用して、根号をふくむ式を計算したり、式の値を求めたりすることができる。
6 ・ 7 ・ 9 月	15 ⑩ 3章 方程式を利用して問題を解決しよう【2次方程式】 (1)2次方程式とその解き方 ④ (2)2次方程式の利用 A ① 章の問題 A・B	○2次方程式 ○平方根の考えを使った解き方 ○2次方程式の解の公式 ○因数分解による解き方 ○いろいろな2次方程式 ○2次方程式の利用	○2次方程式の解の意味を理解する。 ○ $x^2+px+q=0$ の形で表される2次方程式を、平方根の考えを利用できるように変形し、解くことができる。 ○2次方程式の解の公式を理解し、利用して2次方程式を解くことができる。 ○因数分解を使って、2次方程式を解くことができる。 ○具体的な問題について、2次方程式を利用して解決することができる。
10 月	17 ③ 4章 関数の世界をひろげよう【関数 $y=ax^2$ 】 (1)関数 $y=ax^2$ ⑧ (2)関数 $y=ax^2$ の性質と調べ方 ⑤ (3)いろいろな関数の利用 B ① 章の問題 A・B	○関数 $y=ax^2$ ○ $y=ax^2$ のグラフ ○関数 $y=ax^2$ の値の変化 ○関数 $y=ax^2$ の利用 ○いろいろな関数	○関数 $y=ax^2$ の意味を理解し、また、関係を $y=ax^2$ の式に表すことができる。 ○関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴を理解する。 ○関数 $y=ax^2$ の値の変化の特徴を理解し、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる。 ○身の周りの問題を、関数 $y=ax^2$ とそのグラフを利用して解決することができる。 ○身のまわりにいろいろな関数があることを理解し、その変化や対応のようすとらえて、問題を解決することができる。

10 ・ 11 月	23 ⑨	5章 形に着目して図形の性質を調べよう 【相似な図形】 (1)相似な図形 AC	○相似な図形 ○三角形の相似条件 ○相似の利用	○相似な図形の性質を理解する。 ○図形の相似比を求めることができる。 ○相似な図形の辺の長さを、対応する辺の比やとなり合う辺の比が等しいことを使って求めることができる。 ○三角形の相似条件を理解し、それを利用して、2つの三角形が相似かどうかを判断したり、図形の性質を証明したりすることができる。 ○距離や高さを、縮図を利用して求めることができる。
	⑧	(2)平行線と比 学習基盤 B	○三角形と比 ○平行線と比	○三角形と比の定理を利用して線分の長さを求めることができる。 ○平行線と比の定理を利用して、線分の長さを求めたり図形の性質を証明したりすることができる。
	⑤	(3)相似な図形の面積と体積	○相似な図形の相似比と面積比 ○相似な立体の表面積や体積の比	○相似な平面図形の相似比と面積比の関係を理解し、それを利用して図形の面積を求めることができる。 ○相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を理解し、また、立体の表面積や体積を求めることができる。
	①	章の問題 A・B		
11 ・ 12 月	10 ⑥	6章 円の性質をみつけて証明しよう【円】 (1)円周角の定理	○円周角の定理 ○円周角の定理の逆	○円周角、円周角の定理、円周角と弧の定理、直径と円周角の定理を理解し、それらを利用して角の大きさを求め、また、図形の性質を考察することができる。 ○円周角の定理の逆を利用して、図形の性質を考察することができる。
	③	(2)円周角の定理の利用	○円周角の定理を利用した作図 ○円と相似	○円周角の定理を利用して、いろいろな作図の方法を考察することができる。また、円と交わる直線でできる図形の性質を考察することができる。
	①	章の問題 A		
12 ・ 1 月	13 ④	7章 三平方の定理を活用しよう【三平方の定理】 (1)三平方の定理	○三平方の定理 ○三平方の定理の逆	○三平方の定理とその証明を理解する。 ○三平方の定理の逆を利用して三角形が直角三角形かどうかを判断できる。 ○三平方の定理を利用して、いろいろな長さを求めることができる。
	⑧	(2)三平方の定理の利用	○三平方の定理の利用 ○いろいろな問題	○これまでに学んだ図形の性質を利用して、問題を解決することができる。
	①	章の問題 A・B		
1 ・ 2 月	6 ⑤	8章 集団全体の傾向を推測しよう【標本調査】 (1)標本調査	○標本調査 ○標本調査の利用	○標本調査と全数調査の意味と必要性を理解する。 ○無作為抽出の必要性を理解する。 ○標本調査を利用して、母集団全体の数量を推測することができる。
	①	学習基盤 C 章の問題 A・B		
2 ・ 3 月	21	まとめ		

教 科	理 科	学 年	3 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書（東京書籍）・理科の自主学习（新学社）・3年間の総まとめ問題集（新学社）
 基礎徹底64（新学社）・理科便覧（浜島書店）・模擬トレ理科東京5（正進社）
 教室と理科室・一斉授業

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	発言・ワーク・実験レポート ワークシート・小テスト・定期考査 ノート・パフォーマンスなど
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	発言・小テスト・定期考査 実験レポート・ワークシート ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	授業態度・ワーク・小テスト 定期考査・実験レポート ワークシートなど

【授業の進め方と学習のポイント】

- 考え方を理解するとともに、「なぜそうなるか」と常に疑問を抱くことが大切です。
- 実験の過程を大切にしましょう。
- 発見の喜びを感じるようにしましょう。
- 予習 → 授業 → 復習 のサイクルを守りましょう。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、説明をよく聞き大切なポイントはメモをする習慣をつけましょう。

【家庭学習の進め】

- その日に学習した単元項目について、ワークを活用して家庭学習の習慣をつけましょう。
- 定期考査は、授業中に使用したプリント・ワークから類似問題を出題しますので、試験勉強対策として、完全に理解するまで学習しましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

- A 単元1「水溶液とイオン」において、電解質の水溶液では何が起きているかを、既知の知識を活用して考える。個人で考えてから、班で話し合い、タブレットを活用して発表を行う。
(問題発見・解決力、思考力・判断力・表現力)
- B 単元4「月と金星の見え方」において、既知の知識とタブレットの動画を活用して説明できるようにする。(言語能力、知識・技能)
- C 単元5「科学技術と人間」において、「持続可能な社会をつくるために」をテーマとして、班ごとにパワーポイントを作成し、発表する。内容を共有して、深い学びにつなげる。
(情報活用能力、思考力・判断力・表現力)

年間指導計画【化学・生物・物理分野（105時間）】

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4 5 6 7	⑧ 単元1 化学変化とイオン 1章 水溶液とイオン	○水溶液と電流 ○電解質の水溶液の中で起こる変化 [A] ○イオンと原子のなり立ち	<p>・水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を通して、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見いだして理解する。また、電解質水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を通して、電極に物質が生成することからイオンの存在を知るとともに、イオンの生成が原子のなり立ちに関係することを知る。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。</p> <p>・酸とアルカリの性質を調べる実験を通して、酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知る。また、中和反応の実験を通して、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。</p> <p>・化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。</p>
	⑨ 2章 酸、アルカリとイオン	○酸性やアルカリ性の水溶液の性質 ○酸性、アルカリ性の正体 ○酸とアルカリを混ぜ合わせたときの変化	
	⑩ 3章 化学変化と電池	○電解質の水溶液の中の金属板と電流 ○金属のイオンへのなりやすさのちがいと電池のしくみ ○ダニエル電池 ○身のまわりの電池	
	① 単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	
9 10	⑩ 単元2 生命の連続性 1章 生物の成長と生殖	○生物の成長と細胞の変化 ○無性生殖 ○有性生殖 ○染色体の受けつがれ方	<p>・生物の成長とふえ方に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の成長とふえ方について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。</p> <p>・遺伝の規則性と遺伝子について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、遺伝の規則性と遺伝子についての特徴や規則性を見いだして表現する。</p> <p>・生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の種類の多様性と進化について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。</p>
	⑨ 2章 遺伝の規則性と遺伝子	○遺伝の規則性 ○遺伝子の本体 ○遺伝子やDNAに関する研究成果の活用	
	⑥ 3章 生物の多様性と進化	○生物の歴史 ○水中から陸上へ ○さまざまな進化の証拠 ○進化と多様性	
	① 単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	
11	⑩ 単元3 運動とエネルギー 1章 物体の運動	○物体の運動の記録 ○物体の運動の速さの変化 ○だんだん速くなる運動 ○だんだんおそくなる運動	<p>・物体の運動について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。</p> <p>・力のはたらきと物体の運動の関係性について問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、力のはたらきと物体の運動の規則性を見いだして表現する。</p> <p>・仕事に関する観察、実験を行い、仕事と仕事</p>
	⑧ 2章 力のはたらき方	○力の合成と分解 ○慣性の法則 ○作用・反作用の法則	

12	⑫	3章 エネルギーと仕事	○水中ではたらく力	率について理解する。また、力学的エネルギーに関する観察、実験を行い、物体のもつ力学的エネルギーは物体がほかの物体になしうる仕事で測れること、運動エネルギーと位置エネルギーは相互に移り変わることを、力学的エネルギーの総量は保存されることなどを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験の技能を身につける。
			○さまざまなエネルギー ○力学的エネルギー ○仕事と力学的エネルギー ○仕事の原理と仕事率 ○エネルギーの変換と保存	
1	①	単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	
2	⑧	単元5 地球とわたしたちの未来のために 3章 科学技術と人間	○さまざまな物質とその利用 ○エネルギー資源の利用 ○科学技術の発展	・人間は水力、火力、原子力、太陽光などからエネルギーを得ていることを知るとともに、エネルギー資源の有効な利用が大切であることを認識する。また、物質に関する観察、実験などを通して、日常生活や社会では、さまざまな物質が幅広く利用されていることを理解するとともに、物質の有効な利用が大切であることを認識する。さらに、科学技術の発展の過程を知るとともに、科学技術が人間の生活を豊かで便利にしていることを認識する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。
3	④	地域とつながる	○自然災害と地域のかかわりを学ぶ	
3	⑤	終章 持続可能な社会をつくるため	○地球環境と私たちの社会 「持続可能な社会をつくるために」 [C]	
1	①	単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	

年間指導計画【地学・自然分野（35時間）】

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
10	② ⑩	単元4 地球と宇宙 星空をながめよう	・身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。 ・月や金星の運動と見え方について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、月や金星の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。 ・太陽系と恒星に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。
		1章 地球の運動と天体の動き	
11	⑦	2章 <u>月と金星の見え方</u> [B]	
1	⑥ ①	3章 宇宙の広がり	
		単元末	
2	⑥	単元5 地球とわたしたちの未来のために 1章 自然のなかの生物	・日常生活や社会と関連づけながら、自然界のつり合いについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ・生物と環境に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。
3	⑤	2章 自然環境の調査と保全	

教科	英語	学年	3年
----	----	----	----

【教科の目標】

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
聞くこと、話すこと、読むこと、書くことを総合的に指導し、実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材： 『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3 』（三省堂）
副教材： 『Joyful Workbook 3』（新学社）、『学習の達成』（新学社）、
『3年間の英語 ぎゅぎゅつと総まとめ』（明治図書）、『Let's Enjoy BINGO 3年』（浜島書店）、
『Talk and Talk Book 3』（正進社）、サマーアプローチ3（教育同人社）、
『東京都プレ模擬4』（学宝社）
使用教室： 3年2組教室、3年3組教室、3年4組教室、3年5組教室、3階進路指導室、3階英語室
4階国際理解教室
指導形態： 少人数指導

【評価の観点と方法】

観点	評価規準	評価の方法
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる。	・定期考査（「知識・技能」の分野） ・単元テスト（「知識・技能」の分野） ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト 等
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりできる。	・定期考査（思考・判断・表現の分野） ・単元テスト（「思考・判断・表現」の分野） ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト 等
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる。	・授業観察（言語活動への取り組み・コミュニケーションの継続） ・振り返りシートの取り組み状況 ・ノートやワーク等の提出状況 ・定期考査（主体的に学習に取り組む態度の分野） ・パフォーマンステストへの取り組み状況 等

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業の基本は、「先生の話をよく聞くこと」です。授業中の集中を大切にしましょう。
- 単語や表現は「聞く」→「話す」→「読む」→「書く」の順で覚えます。最初の「聞く」を大切に、あとのステップに繋げていきましょう。
- まず覚える、覚えたら使う、使う場面を想定して学習するようにしましょう。
- わからない文法事項は、理解できるよう復習と見直しを行ないましょう。
- 授業中に使ったプリントは、きちんとファイルに保管して復習に活用できるようにしましょう。
- 授業準備、課題の提出期限をしっかりと守りましょう。

【家庭学習のポイント】

○家庭学習では、次のことをやりましょう。

- ①デジタル教科書の音声を聞きながら音読練習（目安は1ページにつき5回）
- ②音読しながら本文をくりかえし書く練習(目安は1ページにつき2回)
- ③単語練習(日本語を見て英語を正しく書けるようになるまで)
- ④ワークを解く（自力で解く→教科書等を見ながら解く→答え合わせ）
- ⑤テストの間違え直し（間違えた理由や文法事項を確認する）

○その日に習ったことを復習することや、宿題などをコツコツやりましょう。語学習得は、「1週間分をまとめて1回」ではなく、「毎日少しずつコツコツ」が大切です。

○英単語・英熟語・英文を何度も声に出して読み、音とスペルを一致させて覚えるようにしましょう。

○各種検定に積極的にチャレンジしよう！

○配布されたプリントはファイルに入れて、学習に生かしましょう。

○提出物は提出期限を必ず守りましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身につけた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス② 言語能力×思考力・判断力・表現力

A Reading for Information 1 オンラインショップの商品紹介

オンラインショップの商品紹介を読み、自分が必要とする情報を読み取り、表現する。

B Reading for Information 2 ゴミの分別ルール

ゴミの分別ルールを読み、自分が必要とする情報を読み取り、表現する。

C Reading for Information 3 イベントのチラシ

イベントのチラシを読み、自分が必要とする情報を読み取り、表現する。

【年間指導計画（1年英語140時間）】

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	L1	Starter Best Music of All Time Lesson 1 Stand by Me 音楽の持つ力	<ul style="list-style-type: none"> ●アメリカの音楽雑誌の記事を要約するために、2つの曲について書かれた記事を読んで、概要を捉える。 ●現在完了進行形の肯定文・疑問文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●現在完了進行形の肯定文・疑問文を理解し、それを含む英文を即興で話したり正確に書いたりする。
5		Take Action! Listen 1 避難訓練のアナウンス Take Action! Talk 1 おすすめの場所は？	<ul style="list-style-type: none"> ●避難訓練のために、火災が起きたときの避難先や避難訓練について話された英語を聞いて、必要な情報を捉える。 ●「質問する」「情報を付け加える」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合う。
6	L2	Lesson 2 Languages in India インドの言語と文化	<ul style="list-style-type: none"> ●受け身形 (by...の文) を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●受け身形 (by...の文) を理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●家族旅行の行き先を検討するために、3つの行き先の候補について話された英文を聞いて、要点を捉える。 ●「理由や説明を求める」「根拠を示して説明する」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。
		Take Action! Listen 2 旅行の行き先の相談 Take Action! Talk 2 どうしてそう思うの？ Reading for Information 1 学習基盤 A オンラインショップの商品紹介 Project 1 日本限定アイスクリームを提案しよう A	<ul style="list-style-type: none"> ●おすすめの商品を提案するために、商品の仕様や金額などについて書かれたオンラインショップの商品紹介を読んで、必要な情報を捉える。 ●日本限定アイスクリームを提案するために、アイスクリームの特徴やおすすめのポイントについて、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて話す。
7	L3	Lesson 3 The Story of Sadako 広島原爆	<ul style="list-style-type: none"> ●後置修飾 (動詞の-ing 形) (過去分詞) を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える ●後置修飾 (動詞の-ing 形) (過去分詞) を理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●誕生日プレゼントを考えるために、相手の好みなどについて話された英文を聞いて、必要な情報を捉える。 ●「話題を変える」「確かめる」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合う。 ●be glad to...の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
		Take Action! Listen 3 ボイスメッセージ Take Action! Talk 3 野球と言えば Get Plus 1 それを聞いてうれしいです	
9	L4	Lesson 4 The World's Manga and Anime 世界に広がった漫画とアニメ	<ul style="list-style-type: none"> ●関係代名詞 that, which (主格) を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●関係代名詞 that, which (主格) を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝えたり、正確に書いたりする。 ●番組で取り上げられたニュースを理解するために、一連のできごとについて話された英文を聞いて、概要を捉える。
		Take Action! Listen 4 ラジオニュース Take Action! Talk 4	

1 0		道順を教えてくださいませんか	<ul style="list-style-type: none"> ●「道順をたずねる」「交通経路を説明する」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。
	L5	Reading for Fun 1 Zorba's Promise Reading for Information 2 学習基盤 B ゴミの分別のルール Lesson5 I have a Dream アメリカの公民権運動	<ul style="list-style-type: none"> ●物語のおおまかな流れなどを理解するために、ネコのゾルバとカモメのラッキーについて書かれた物語を読んで、概要を捉える。 ●質問に答えるために、ゴミを出す方法や曜日ごとの分別について書かれたゴミの分別ルールを読んで、必要な情報を捉える。 ●関係代名詞 that, which (目的格),後置修飾(名詞を修飾する文)を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●関係代名詞 that, which (目的格),後置修飾(名詞を修飾する文)を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
1 1		Take Action! Listen 5 落とし物の問い合わせ Take Action! Talk 5 サンドイッチに何を入れましょうか Reading for Information 3 学習基盤 C イベントのチラシ Project 2 国際交流イベントに出展しよう B	<ul style="list-style-type: none"> ●落とし物の問い合わせに対応するために、落とし物に関する情報について話された英文を聞いて、概要を捉える。 ●「食事を勧める」「承諾する・断る」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。 ●質問に答えるために、タイムテーブルやコンサートの情報について書かれたイベントのチラシを読んで、必要な情報を捉える。 ●国際交流イベントでブースを出すために、選考方法や選考基準が書かれた募集内容を読んだりして、自分の住んでいる町や地域の文化についてアピールできることを、簡単な語句や文を用いて話す。
	1 2		
1	L6	Lesson 6 Imagine to Act 空想する勇気、行動する勇気 Take Action! Listen 6 スピーチ Take Action! Talk 6 あなたはどう思う？ Get Plus 2 If I were you,	<ul style="list-style-type: none"> ●仮定法過去 (if) や (I wish ...) を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●仮定法過去 (if) や (I wish ...) を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●国際環境イベントでのスピーチの内容を理解するために、コスタリカのエコツーリズムについて話された英文を聞いて、概要を捉える。 ●「議論を進める」「議論に参加する」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。 ●If I were you, I would...の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
	L7	Lesson 7 For Our Future 中学生活の思い出、英語を学ぶ意義 Get Plus 3 I want you to	<ul style="list-style-type: none"> ●間接疑問や<help+A+動詞の原形>を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●間接疑問や<help+A+動詞の原形>を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●want + A + to...の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
2		Project 3 ディスカッションをしよう C Reading for Fun 2 A Present for You Reading for Fun 3 Learning from Nature	<ul style="list-style-type: none"> ●現在完了形(完了用法)(経験用法)の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。

教 科	音 楽	学 年	3 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

- ・仲間と協力して表現をつくりあげる音楽活動の喜びを体験することを通して、音や音楽に対する興味・関心を高める。
- ・曲想や背景、楽曲構造を理解させ、創意工夫を生かした音楽表現をさせる。
- ・多様な時代や国の音楽の学習を通して、音楽が人々の生活や文化に果たす役割について考えを深めさせる。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材：音楽の教科書（教育出版）、ニューコーラスフレンズ（教育芸術社）、音楽のハーモニー（正進社）
 使用教室：第1音楽室、第2音楽室
 指導形態：一斉指導、グループ活動

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査
思考・判断・表現	・知識・技能を生かし、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。 ・音楽を評価しながら、よさや美しさについて説明している。	・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に音楽活動に取り組み、体験を通して、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいこうとしている。	・観察 ・ワークシート

【授業の進め方と学習のポイント】

- 音楽を聴くときは、いつも「どのような特徴があったか」、「どのような感じがしたか」を意識して聴き、言葉にして表現してみましょう。
- 音楽を表現するときは、基本的な技能の習得だけでなく、「意思の強さを伝えるために、ここははっきりと発音して歌おう」というように、曲の思いや意図を表現するために創意工夫をしよう。
- 授業では皆さんの発言を取り入れながら進めます。是非積極的に挙手して発言しましょう。また、仲間の意見もメモし、表現の幅を広げましょう。

【家庭学習の進め方】

- 教科書やワークシートを見て、授業で学習した内容を復習しましょう。
- 実技は、基本的な歌唱方法や表現の工夫を意識して練習しましょう。音程や歌詞は覚えましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身につけた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑥情報活用能力×学びに向かう力

- A 歌舞伎「勸進帳」を鑑賞し、音楽の特徴を舞台の表現と関わらせ、舞台芸術での音楽の役割や効果を考え、自分の意見を言葉で表す。
- B 滝廉太郎「花」において、曲想と音楽の構造等との関わりを理解し、音楽の諸要素の知覚・感受を基にどのように歌いたいか思いや意図をもって歌唱表現を工夫する。
- C 合唱曲は、クラス合唱をグループ発表や録音等で客観的に聴いて課題を見つけ、それを解決するためにどのような練習をするべきか話し合い、実践する。

【年間指導計画（音楽）】

	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月 5月	2	正しい発声を確認しよう。 ・音楽科のルール、合唱の基本、楽典の基礎 ・発声練習 ・「校歌」	・基礎の姿勢、表情、発声方法 ・校歌の旋律、強弱、歌詞の意味について	・音楽の基礎知識を身につけて、多様な表現に生かす。 ・歌唱の正しい姿勢と発声方法を身につける。
6月	3	音楽と舞台による表現の関連を考えながら鑑賞しよう。 ・「アイダ」	・オペラについて ・物語と、音楽の関わり ・作曲の時代背景	・オーケストラの音色や変化する曲想を理解させる。 ・物語と音楽表現の関わりを通して、オペラよさや魅力に触れる
7月	3	拍子や強弱、フレーズを感じながら指揮をしてみよう。 ・A「花」	・拍子の種類 ・指揮法（腕の使い方） ・指揮の表現について	・指揮の基本を学び、豊かに表現する技能を身につける。 ・曲想や雰囲気を理解し、音楽表現を工夫する。
9月	12	学習発表会に向けて ・C自由曲	・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり ・パート練習の仕方 ・楽曲の基礎知識	・歌詞の内容や曲想を感じ取らせ、表現を創意工夫させる。 ・パート練習の仕方を習得させる。 ・声部の役割を理解させ、全体の響きを考えて表現させる。
10月	3	物語の内容や特徴を理解し、日本の芸能のよさを味わおう。 ・B歌舞伎「勸進帳」	・謡と三味線との関わり ・舞台や楽譜について ・演目の物語、構成	・音楽の要素を理解させ、曲想の雰囲気を感じ取らせる。 ・日本芸能特有の拍の取り方や間、リズムなどを味わわせる。
11月	2	音楽と人形の表現とを関連づけながら鑑賞しよう。 ・文楽「義経千本桜」	・文楽の音楽 ・舞台について ・歌舞伎との比較	・音楽の要素を理解させ、曲想の雰囲気を感じ取らせる。 ・日本芸能特有の拍の取り方や間、リズムなどを味わわせる。
12月	3	フレーズや速度の変化を生かして表現を工夫しよう。 ・「帰れソレントへ」	・フレーズ ・速度の変化 ・カンツォーネ ・音楽の背景（地域について）	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。 ・曲想や雰囲気を理解し、音楽表現を工夫する。
1月 2月 3月	7	三送会、卒業式に向けて ・「旅立ちの日に」 ・「仰げば尊し」 ・「蛍の光」他	・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり ・パート練習の仕方 ・楽曲の基礎知識	・これまでの学習内容を総合的に生かして、自主的に協力して取り組むことができるようにする。 ・声部の役割を理解し、全体の響きを感じ取って歌うようにさせる。

教科	美術科	学年	3年	(令和5年度)
----	-----	----	----	---------

【教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

○感じる表す美術（浜島書店） ○教科書 ○レタリング・ポスター資料集 ○美術室 ○一斉授業 ○個別指導

【評価の観点と資料】

観点	評価基準	評価資料
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 美術の基礎的技能を生かし、表現するための技能を新たに習得することができる。 日本及び諸外国の美術や美術文化を理解し国際理解を深めることができる。 生活や社会における美術の働きについて理解することができる。 制作順序など見通しをもち制作することができる。 用具を適切に扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート 定期考査 鑑賞ワークシート 鑑賞レポート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 題材に応じて発想力や想像力を働かせ、問題解決への道筋を立て、表現力を働かせて解決することができる。 造形的な視点で見つめて、感じたことや考えたことを言葉で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート 定期考査 アイディアスケッチ 鑑賞ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 活動に関心を持ち、授業に取り組むことができる。 意欲的に美術の能力を身につけようとしている。 提出物の提出期限を守ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ワークシート 定期考査

【授業の進め方と学習のポイント】

- 作品は制作過程も大切です。その授業ごとの目標を押さえ、達成できるよう努力しましょう。また、途中で放棄せず自分なりの完成を目指しましょう。
- 作品は限られた時間の中で制作するので、見通しをもって計画的に進めましょう。
- 目標に向けて構成を練り、身に付けた技能を発揮する力を身に付けようとしましょう。
- 表現や鑑賞の基本的な知識をしっかりと学び、身に付けましょう。

【家庭学習の進め方】

- 日頃の生活の中で、何かを見たり聞いたり触れたりしたときに、自分なりに感じ取る感性を大切に、身の回りにあふれる色や形に関心を持ちましょう。
- 美術館や展覧会にも積極的に行き、感性や造形的視点を磨きましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス④情報活用能力×知識技能

- A 鑑賞:「プレゼンテーション」作品の工夫したところや良いところを文字を使って表現する。(言語能力・思考力、判断力、表現力)
- B「ポスター制作」どのように工夫したら伝えたい内容を伝えることができるのか発想・構想を働かせる。(問題発見、思考力、判断力、表現力)
- C「心地の良い環境を考えたデザイン」学んだり、調べたりした内容を活用し作品を制作する。(情報活用能力・思考力、判断力、表現力)

【年間指導計画（年間 35 時間）】

月	時数	単 元 名	主に学習すること	学習のねらい
4	1	1.オリエンテーション	○授業内評価について	○授業の評価について理解することができる。
	1	2.大仏について	○造形的な視点で大仏を鑑賞する	○大仏についての知識を身につける。
5	3	3.日本の伝統美術	○掛け軸や屏風、和菓子等日本の伝統美術について	○日本の伝統文化についての知識を身につける。
6	5	4.和菓子のデザイン	○樹脂粘土を使い、和菓子の模型を作り、季節感を表現する。	○和菓子を通して季節感をデザインする力を身につける。
7	1 (11)	5.ポスター制作 B	○ポスターを使い伝えたい内容を伝えることについて	○色や形、文字を使いポスターを使いデザインする力を身につける。
9	1	6.空間デザイン	○空間デザインについて	○空間デザインについての知識を学ぶ。
10	6	7.心地の良い環境を考えたデザイン C	○心地の良い空間について考え立体で表現する。	○空間デザインを通してデザインする力を身につける。
11	2	8.鑑賞:プレゼンテーション A	○制作した作品をプレゼンテーションする。	○プレゼンテーションを通して鑑賞から読み取ったことを言葉にし、言語能力を身につける。
12	5 (14)	9. 映像で表現する	○映像で表現する技法や知識について学ぶ	○映像で表現する技法や知識についての知識を身につける。
1	6	10. 3年間の思い出	○中学校の三年間について感じたことや考えたことを表現する。	○感じたことや考えたことを表現する。力を身につける。
2				
3	4 (10)	11.卒業制作	○中学校での制作について振り返る。	○中学校での美術についてまとめ卒業後の生活に活かす。

【教科の目標】

体育的活動・保健の授業を通して、スポーツや体を動かす喜びを味あわせる。また身体や健康に関する知識、理解を深めさせる。本校の保健体育科で育てたい生徒像は以下の通りである。

- ◇自分で健康の保持・増進、安全に配慮できる生徒。
- ◇自分で体力づくりができる生徒。
- ◇積極的に運動に親しみ、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる生徒。
- ◇苦しさを乗り越えて問題を解決することのできる生徒。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

- ◇使用教材：保健体育教科書（東京書籍）、図解中学保健体育（あかつき）、保体資料ノート
- ◇使用教室：各教室、体育館、校庭、屋上プール、屋上運動場
- ◇指導携帯：一斉授業、課題別グループ学習、習熟度別グループ学習

【評価の観点と資料】

観 点	評 価 規 準	評 価 資 料
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的な実践に関して具体的な事柄や生涯に渡って運動を豊かに実践するための理論について理解している。 ・運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 ・個人生活における健康・安全について科学的に理解し、基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業への参加姿勢や取り組み ◇学習カード ◇発表・発言 ◇宿題・ノート提出
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫し、それらを他者に伝えている。 ・個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇技能向上の取り組み ◇安全管理への配慮 ◇学習カード ◇発表・発言 ◇学習カード
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に組もうとしている。 ・健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇話を聞く姿勢・態度 ◇定期考査 ◇学習カード ◇授業観察

【授業の進め方と学習のポイント】

- ◇基礎・基本を大切にして、関心・意欲を高める。
- ◇基礎体力の向上と各種の運動技能の習得を図る。
- ◇準備や片付けをみんなで協力して行う態度を養う。
- ◇自己の能力を分析し、練習を工夫してその能力を高めることができる。
- ◇習熟度別の授業形態を工夫する。

【家庭学習の進め方】

日頃から新聞やテレビ、インターネットなどでスポーツニュースに親しむ。特にそのシーズンのスポーツや全国的、世界的に活躍している人物や競技を調べると良い。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑧問題発見・解決力×思考力・判断力・表現力

- A 各種目の歴史や特性、競技規則などを調べて種目への理解を深める。（情報活用能力・学びに向かう力）
- B 器械運動で自分の技能を記録し、課題を発見し、解決方法を見つける。（問題発見・解決力・思考力・判断力・表現力）
- C ダンスの単元で、グループで意見を出し合い、作品をまとめあげる。（言語活用能力・思考力・判断力・表現力）

【年間指導計画（年間105時間）】 <3年>

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月	⑤ *集団行動 体力測定	<ul style="list-style-type: none"> ・集合隊形、基本姿勢 ・準備運動、ラジオ体操 ・体力テストの測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育活動を行う集団としての素速さや合理性を高める
5月	⑥ *陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走、ハードル走、 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる
	⑥ *体育大会種目練習	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走、リレー 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる
6月	⑩ *球技1・走り高跳び【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール、走り高跳び ・競技の中での効率的な動き 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能や集団技能を練習やゲームの中で仲間と協力して高める。 ・自己の能力の向上を目指し努力する
7月	⑥ *ボッチャ	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技能の習得 ・戦略的知識の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やチームの特徴に応じて、作戦を立て、役割に応じた活動をする。
	⑩ *水泳	<ul style="list-style-type: none"> ・泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・水に親しみ楽しく泳ぎ、自己の能力に適した課題を考えて練習する ・記録測定では自己の記録の向上を目指し努力する。 ・自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる
	⑧ *健康と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への適応能力、活動に適する環境等 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の環境への適応能力、空気や水の管理などについて知る。
9月	③ *運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果、運動やスポーツの学び方等 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果や学習法、安全の必要性を知る。
10月	⑩ *ダンス【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技能の習得 ・効率的な動き ・技の組み合わせ、連続技 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身に付けさせる。 ・自己の能力に適した課題を設定して楽しく安全に協力して練習に取り組む。
11月	⑭ *器械運動【B】 (マット、跳び箱運動)	<ul style="list-style-type: none"> ・創作ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題を設定して集団としての表現をしていく。
12月	⑫ *球技2	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・サッカー 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能や集団技能を練習やゲームの中で仲間と協力して高める ・基本技能を高めるとともに、パスを効率よく使いチームとして多彩な攻めができるようになる。
	⑧ *健康な生活と疾病の予防③	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の起こり方、生活習慣病の予防等 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生要因や予防対策、医薬品や医療機関の利用法について知る。
1月	⑭ *球技③	<ul style="list-style-type: none"> ・卓球 ・バドミントン 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身に付けさせる。 ・自己の能力に適した課題を設定して楽しく安全に協力して練習に取り組む。 ・基本技能、安全を重視した試合をする ・個人的技能身に付け練習やゲームの中で仲間と協力してできる
2月			
3月			

教 科	技術科	学 年	3年
-----	-----	-----	----

【教科の目標】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

◇技術・家庭「技術分野」（開隆堂） ◇地下1階 木工室・金工室
 ◇材料と加工に関する技術 ◇情報に関する技術

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	材料と加工、情報に関する技術について理解しているとともに、それらに関わる技能を身に付けている。	◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇定期考査
思考・判断・表現	材料と加工、情報に関する技術について、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇小テスト ◇定期考査
主体的に学習に取り組む態度	材料と加工、情報に関する技術を活用し、よりよい生活の社会や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	◇作品 ◇課題等提出物内容

【授業の進め方と学習のポイント】

- 座学での内容を踏まえて、製作・作業実習に入るので、授業内容をよく理解し、不明な点・疑問な点はその日のうちに解決すること。
- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、授業内容に疑問を持つ程度に真剣に取り組むこと。
- 作業は安全を第一として参加すること。
- 作業は座学の内容を十分復習をして、作業の目的をはっきりと認識して取り組むこと。
- 提出物・作業は期限を守ること。
- 定期考査の前には、事前プリントをよく参照すること。

【家庭学習の進め方】

一番大切なことは、授業内容の理解です。プリントの内容や授業中の解説を復習するとともに、新たな言葉は調べ学習なども行い理解を深めることが大切です。
 図面や専門用語の多いことが特徴の教科です。特殊な言い回しや用語を覚えると先生との授業中の会話に無駄がなくなります。
 思考・判断・表現についての力を身につけるためには、社会での技術の活用を知ることも大切です。授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をしましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑨

- A「コンテンツのプログラムを制作しよう」基本のプログラムを評価し、社会で起きている問題や要求を参考に、改善案を提案する。
- B「学んだことを社会に生かす」既習事項を振り返りながら、社会で起きている問題から課題を見出し、自分なりの解決策やその方向性を提案する。

●3年生

時間	指導項目（単元名）	学習内容	学習のねらい	
1	A 材 料 と 加 工 の 技 術	材料と加工の技術の 原理・法則と仕組み	金属材料の特徴 金属の加工方法	■身のまわりにある金属の特徴を知る。 ■様々な金属加工の方法を知る。
2		材料と加工の技術に よる問題解決	問題の発見と課題の設 定（型の設計）	■生活の中から、身の回りの問題を見いだして、課題 を設定することができる。 ■強度設計をふまえた型のデザインを作成できる。
3		実習：鋳造・研磨加 工（キーホルダーの 製作）	型の作成	■デザインを修正し、型を作成することができる。
4			鋳造	■安全面に配慮して鋳造を行うことができる。
5			研磨	■適切な工具や方法を用いて研磨を行うことができる。
6				
7				
8			仕上げ	■適切に機械を使用し、キーチェーンをとりつける穴 を空けることができる。 ■研磨剤を適切に使用し、金属を磨いて光沢を出すこ とができる。
9				
11	D 情 報 の 技 術	双方向性のあるコン テンツのプログラミングによる問題解決	双方向性のあるコンテ ンツのプログラミング	■双方向性のあるコンテンツにはどのようなものがある か知る。 ■双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みについ て考えることができる。
12		双方向性のあるコンテ ンツのプログラムを制 作しよう	■適切なプログラムの制作と動作の確認，デバッグを 行うことができる。	
13		問題を発見し課題を設 定しよう 学習基盤A	■制作した双方向性コンテンツを見直し、プログラミング によって解決できる問題を見つけることができる。 ■発見した問題を解決するための課題を設定することが できる。	
14		プログラムを改善しよ う	■適切なプログラムの制作と動作の確認，デバッグを 行うことができる。 ■使用する人のことを考えてプログラムを制作するこ とができる。	
15		問題解決の評価	■双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる 問題解決を振り返り，解決結果及び解決過程を評価し 、よりよいコンテンツについて考えることができる。	
16 17 18	技術分野の学習を終えて	学んだことを社会に生 かす 学習基盤B	■3学年間の技術の学習内容を振り返り，これから技術 とどのように関わっていきたいかを考えてまとめるこ とができる。 ■地球環境や将来の世代のための技術について考え， 10年後，50年後の未来を予測しようとする。	

※学校行事、授業の進捗状況、材料の入荷状況により、学習内容の順番を入れ替えることがあります。

教科	家庭科	学年	3年	(令和5年度)
----	-----	----	----	---------

【教科の目標】

生活についての理解を深め、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技術を身に付ける。実践的・体験的な活動を通して、課題を見つけて解決したり、考察したことを論理的に表現したりして、生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。家族や地域の人々の関わりを考え、協働し、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫する実践的な態度を身に付ける。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

◇技術・家庭 家庭分野（開隆堂）、技・家ノート 家庭分野（開隆堂）、プリント、ファイル
 ◇各教室、被服室、調理室(感染症の状況を踏まえ使用検討する) ◇一斉授業、グループ学習指導

【評価の観点と資料】

観点	評価基準	評価資料
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技術を身に付けている。	ワーク・プリント・作品・定期考査・課題等提出物内容
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	ワーク・プリント・定期考査・課題等提出物内容
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	ワーク・プリント・実習レポート・課題等提出物内容・作品

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業は、板書を写すだけでなく、説明をよく聞き、新しい知識をメモしたり、自分の意見を書き足したりして知識・理解を深めること。
- 一斉授業やグループ学習では、発表や発言に進んで参加すること。
- 実習などの活動では、班員と協力して計画的に行うこと。
- 実習などの活動では、教員の指示や被服室、調理室の使用方法に従い安全に作業すること。
- 提出物の期限を守ること。忘れ物をしないこと。
- 実習や授業のねらいを理解し、生活に活用させること。
- 定期考査前は、言葉を暗記するだけでなく、自分の家庭生活を振り返り生活と照らし合わせて思考すること。

【家庭学習の進め方】

- ① 課題は丁寧に取り組むこと。その時の発見・気づきを大切にすること。
- ② 授業で習ったこと、自分で実践できることを家庭で積極的に行い復習すること。
- ③ 授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をすること。また、情報を生活に活用させること。
- ④ 社会や地域・家庭生活について関心をもち、気になったことはメモをとり調べる習慣をつけること。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス④情報手段能力×知識技能

- A 持続可能な消費行動「消費行動が社会や環境に与える影響」消費行動が社会や環境に与える影響について調べ、自分の生活を工夫するための情報を得る。
- B 幼児の生活と家族「幼児の遊び」幼児の発達に合わせた安全な遊びについて調べ、理解する。
- C 持続可能な家庭生活「子どもの健やかな成長」子どもの成長と地域のつながりについて課題意識をもって調べる。

【年間指導計画（年間 35 時間）】

週	単元名	主に学習すること	学習のねらい	
1	C 消費生活・環境	1.契約の仕組み	契約の仕組みを理解する。	
2	消費者被害と消費者の自立	2.消費者被害の背景と対応	消費者トラブルについて知り、解決方法を考える。	
3		3.消費者の権利と責任	消費者の権利と責任について理解する。	
4	持続可能な消費行動 学習基盤A	1.消費行動が社会や環境に与える影響	消費行動が社会や環境に与える影響について理解し、よりよい消費行動のあり方を考える。	
5		2.世界の国々と連帯した持続可能な生活の創造		
6	A 家族・家庭生活	1.幼児のころと今の自分	○自分の幼児期を振り返る。	
7	幼児の生活と家族 学習基盤B	2.幼児の体と心の発達	○子どもが育つ環境としての家族の役割を考える。	
8		3.発達にとってのおとなの役割	○幼児の発達と生活の特徴を理解する。	
9		4.幼児の遊び	○幼児期の遊びの種類と育つ力について考える。	
10		5.遊びを支える環境		○昔と現代の子どもの遊びを比較し、遊びと環境の課題を解決しようとする。
11				
12	幼児とのかかわり	1.幼児とのふれあい	中学生が幼児とふれあうときの、留意点を考え、工夫する。	
13		2.子どもの成長と地域		
14	家庭生活と地域のかかわり	1.中学生と地域	高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫する。	
15		2.地域に暮らす高齢者		
16	持続可能な家庭生活 学習基盤C	1.子どもの健やかな成長	家庭生活の課題を発見し、地域や社会の一員として、多様な人びとと暮らしていくために課題を解決したり、工夫したりしようとする。	
17		2.持続可能な家庭生活		
18				